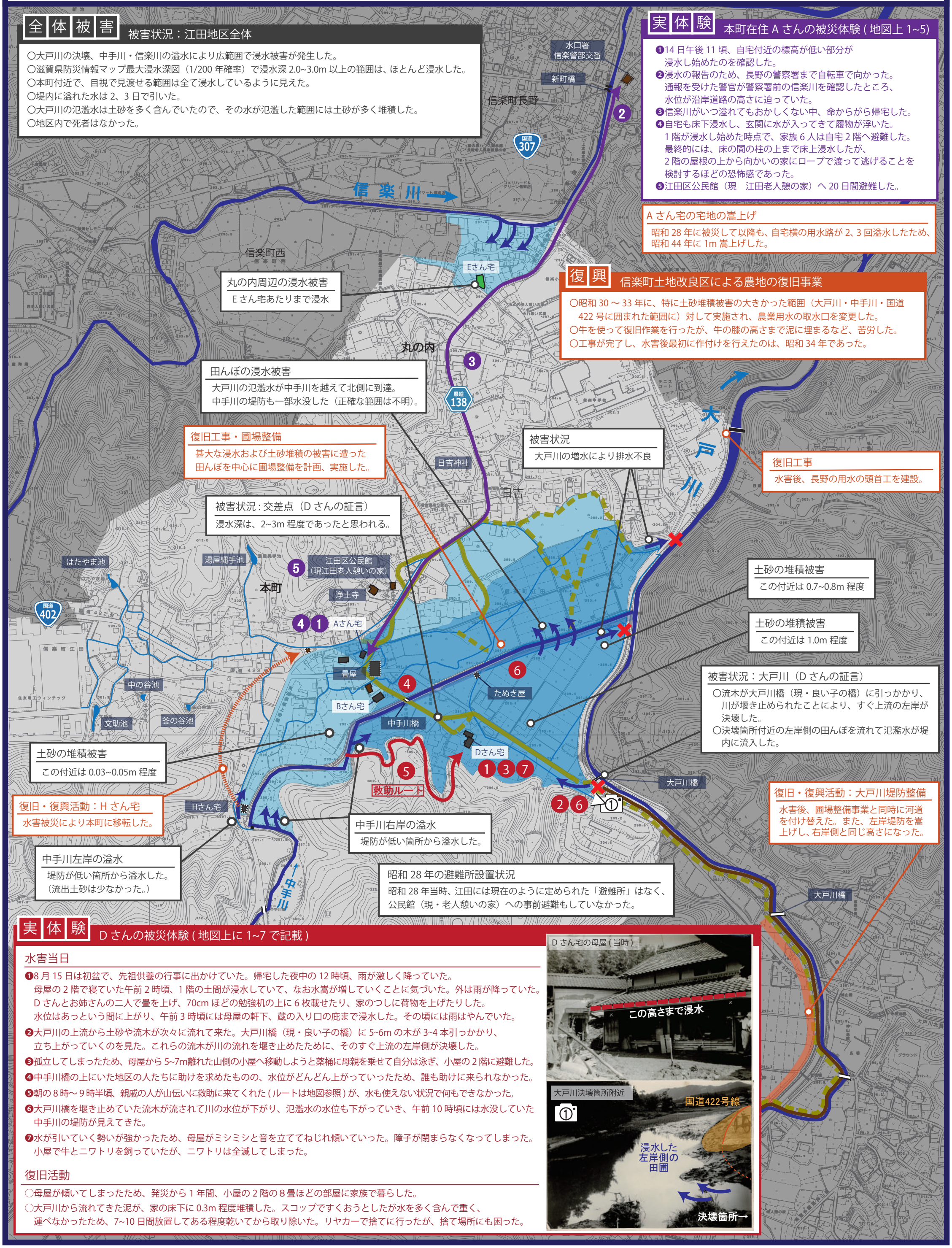
滋賀県甲賀市信楽町江田水害履歴マップ②　1953(昭和28)年8月14～15日(多羅尾豪雨)

■被害状況　■復旧・復興活動　■A さんの被災体験談　■D さんの被災体験談

2021(令和 3) 年 12 月 1 日に江田福祉会館、2022（令和 4）年 6 月 9 日に D さん宅での聞き取り調査に基づき作成

0m　100m　200m

作成　関西大学　景観研究室（甲賀市信楽町都市計画地図上に加筆）
信楽町江田地区外の被害状況は、本マップには含めないものとする。



全体被害　被害状況：江田地区全体

○大戸川の決壊、中手川・信楽川の溢水により広範囲で浸水被害が発生した。
○滋賀県防災情報マップ最大浸水深図（1/200 年確率）で浸水深 2.0~3.0m 以上の範囲は、ほとんど浸水した。
○本町付近で、目視で見渡せる範囲は全て浸水しているように見えた。
○堤内に溢れた水は 2、3 日で引いた。
○大戸川の氾濫水は土砂を多く含んでいたので、その水が氾濫した範囲には土砂が多く堆積した。
○地区内で死者はなかった。

実体験　本町在住 A さんの被災体験 (地図上 1~5)

❶14 日午後 11 頃、自宅付近の標高が低い部分が浸水し始めたのを確認した。
❷浸水の報告のため、長野の警察署まで自転車で向かった。通報を受けた警官が警察署前の信楽川を確認したところ、水位が沿岸道路の高さに迫っていた。
❸信楽川がいつ溢れてもおかしくない中、命からがら帰宅した。
❹自宅も床下浸水し、玄関に水が入ってきて履物が浮いた。1 階が浸水し始めた時点で、家族 6 人は自宅 2 階へ避難した。最終的には、床の間の柱の上まで床上浸水したが、2 階の屋根の上から向かいの家にロープで渡って逃げることを検討するほどの恐怖感であった。
❺江田区公民館（現　江田老人憩の家）へ 20 日間避難した。

A さん宅の宅地の嵩上げ

昭和 28 年に被災して以降も、自宅横の用水路が 2、3 回溢水したため、昭和 44 年に 1m 嵩上げした。

復興　信楽町土地改良区による農地の復旧事業

○昭和 30 ～ 33 年に、特に土砂堆積被害の大きかった範囲（大戸川・中手川・国道 422 号に囲まれた範囲に）対して実施され、農業用水の取水口を変更した。
○牛を使って復旧作業を行ったが、牛の膝の高さまで泥に埋まるなど、苦労した。
○工事が完了し、水害後最初に作付けを行えたのは、昭和 34 年であった。

実体験　D さんの被災体験 (地図上に 1~7 で記載)

水害当日

❶8 月 15 日は初盆で、先祖供養の行事に出かけていた。帰宅した夜中の 12 時頃、雨が激しく降っていた。母屋の 2 階で寝ていた午前 2 時頃、1 階の土間が浸水していて、なお水嵩が増していくことに気づいた。外は雨が降っていた。D さんとお姉さんの二人で畳を上げ、70cm ほどの勉強机の上に 6 枚載せたり、家のつしに荷物を上げたりした。水位はあっという間に上がり、午前 3 時頃には母屋の軒下、蔵の入り口の庇まで浸水した。その頃には雨はやんでいた。
❷大戸川の上流から土砂や流木が次々に流れて来た。大戸川橋（現・良い子の橋）に 5~6m の木が 3~4 本引っかかり、立ち上がっていくのを見た。これらの流木が川の流れを堰き止めたために、そのすぐ上流の左岸側が決壊した。
❸孤立してしまったため、母屋から 5~7m離れた山側の小屋へ移動しようと薬桶に母親を乗せて自分は泳ぎ、小屋の 2 階に避難した。
❹中手川橋の上にいた地区の人たちに助けを求めたものの、水位がどんどん上がっていったため、誰も助けに来られなかった。
❺朝の 8 時～ 9 時半頃、親戚の人が山伝いに救助に来てくれた (ルートは地図参照) が、水も使えない状況で何もできなかった。
❻大戸川橋を堰き止めていた流木が流されて川の水位が下がり、氾濫水の水位も下がっていき、午前 10 時頃には水没していた中手川の堤防が見えてきた。
❼水が引いていく勢いが強かったため、母屋がミシミシと音を立ててねじれ傾いていった。障子が閉まらなくなってしまった。小屋で牛とニワトリを飼っていたが、ニワトリは全滅してしまった。

復旧活動

○母屋が傾いてしまったため、発災から 1 年間、小屋の 2 階の 8 畳ほどの部屋に家族で暮らした。
○大戸川から流れてきた泥が、家の床下に 0.3m 程度堆積した。スコップですくおうとしたが水を多く含んで重く、運べなかったため、7~10 日間放置してある程度乾いてから取り除いた。リヤカーで捨てに行ったが、捨て場所にも困った。